

ふふふ

fu fu fu 幸せを感じたとき...

信楽通信 第225号 2017. 2. 16 発行

社会福祉法人 しがらき会

【法人事務局(信楽青年寮内)】

tel 0748-82-0588 fax 0748-82-0961

URL <http://www.shigaraki.or.tv> e-mail shigaraki@miracle.ocn.ne.jp

信楽青年寮
ワークセンター紫香楽
しがらき地域生活支援センター
甲賀働き暮らし応援センター

しがらき地域活性化事業
第2回ワークショップ

みんなでひな人形を作ろう!!

みんなで陶器のひな人形を作ろう!!

ええやろ~

こんなんつくってみひん?



素焼きのカップに絵をかいたり色粘土をはりつけてつくります。

アイデアしだいでいろんなひな人形ができるよ。

ぜんざい
お茶もあるよ。



第1回ワークショップの報告

信楽青年寮では、藤喜陶苑店舗（信楽町本町商店街）をお借りして、信楽町内にお住いの障がいがある人たちへの余暇支援を介して、地域活性化にも寄与出来ればと考えワークショップなど取り入れた活動を開始しました。

昨年12月10日（土）に1回目のイベントを行い、参加者の皆さんで陶器や織物などを活用したクリスマスリースを作りました。当日は、皆さん真剣な眼差しで作業に取り組み、個性豊かなリースやクリスマスツリーの飾りなどが出来上がりました。

第2回のイベントは、参加者の皆さんで陶器のコップを使った「ひな人形」を作りたいと思います。簡単な作業でオリジナルのひな人形を作ることができます。皆さんふるってご参加ください。

日時：2月18日（土） 午前の部 10:00~11:30 午後の部 13:30~15:00

場所：FUJIKI（旧藤喜陶苑店舗 信楽町長野本町 信楽商店街 cafe awaisa隣）

対象：信楽町内にお住まいの障がい児・者とそのご家族等

参加費：無料（先着40名/午前の部20名・午後の部20名）

主催：信楽青年寮

協力：・ROOF ・公益財団法人滋賀県陶芸の森

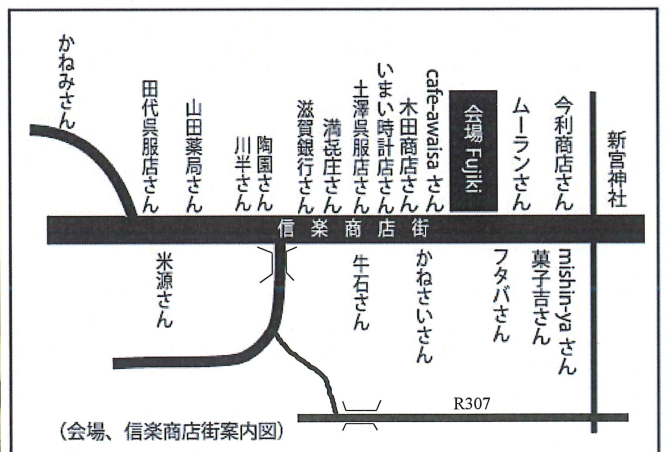
(写真は前回のワークショップ風景)

【お申込み・お問い合わせ】

信楽青年寮

Tel: 82-0588

※ご参加される方は、
事前にご連絡をお願いします。



「しがらき地域生活支援センター」だより

しがらき地域生活支援センターには「うるむろ」（相談支援事業）、「らいふ・かれつ」（居宅介護・行動援護・重度訪問介護・移動支援事業）、「はあと・ふあくとり」（共同生活援助事業（十九か所））と本人部会の会等があります。初めから事業ありきで開設したわけではありません。町の中の障がいのある人が「あんしん・あんぜん」「あたりまえに」「自分らしく」をキーワードとして楽しく充足感をもちより豊かな地域生活を送れるよう、必要な支援をつくっていった結果、この三つの事業となり、しがらき地域生活支援センターという『かたち』が生まれました。



平日の夕方にはたくさんのご利用者がセンターに顔を出されます。「ただいまー」「ちよっと聞いてよー」「会社で怒られたー」「友達があー」「仕事帰りにたまたま寄っただけの人、悩みを聞いてほしい人、しゃべりに来た人、友達とセンターで待ち合わせしていた人、いろんな人が訪れます。そんな彼らの表情や話を聞きながら、職員はときどき「ちよっと特別」なおもてなしをします。それはほんのささいなこと。普段入れないお茶を入れてみたり、個室に案内してみたり、近

くのお店まで誘ってみたい。町の中で暮らす彼らが今日一日抱えてきたことをそのまま持ち帰るのではなく、足取りが重い人が帰り道取り軽くセンターを出られるように、イライラしていた人が晴れやかな表情でホームに帰れるように、悩んでいた人が笑顔で帰れるように。夕方の時間は職員にとって一日の中で一番忙しく、一番緊張し、また一番楽しい時間になっています。しがらき地域生活支援センター 甲賀市信楽町長野1245 0748(82)8210

今年度も職場開拓や企業への訪問だけでなく、生活の相談や余暇支援にも取り組んでいます。今年度は在職者交流会として、食事会や鍋パーティーを行いました。三月にも行事を予定しています。しかし、当センターができることは全体の支援の中の一部で、就労生活を支援するには多くの人や機関の協力が必要です。これからも多くの人や機関と連携して、安定した就労生活の実現を支えていきたいと考えています。 (平井 記)

「ワークセンター紫香楽」より「こんにちわ」

「卒業証書 渡し」

今年も元氣いっぱいの子供たちが、ワークセンター紫香楽にやってきました！ 毎年、一月になると信楽小学校六年生児童が卒業証書を渡しに來られます。卒業証書を渡す前に、事前学習として『福祉』について学びに來られました。『福祉』・子どもたちが考える福祉、身近にある福祉、そして信楽という町が培ってきた福祉・福祉現場の中で学んだことに意味があると思います。その後、車いす移動車を使った

体験を行いました。車いすに乗って他の人に動かされる感覚を体験し、急に車いすが動くことへのこわさ、どこに動かされるのか分からないことでの不安を実際に感じたことで、車いすを動かす際の声掛けの大切さなどをそれぞれが感じ、考える機会となりました。その後、施設内を見学。実際に働かれています姿を目の当たりにして、漠然としていた障がいというイメージがとてもしななものとして理解されたように思います。そして、翌週・いよいよ卒業証書渡しです。和紙原料

となる「楮」のちりとり作業↓打解作業↓紙漉き・・・と、和紙ができるまでの工程を体験。工程ごとに利用者の方が指導にあたられました。職人技を見せる利用者の方に歓声が上がり、世界に一枚の卒業証書を作るため、児童たちの紙を漉く姿にも力が入っていました。「勉強がんばりや」「また遊びにおいでや」とやさしく声を掛ける利用者の方に、「ありがとっ！」と元氣いっぱいの笑顔を見せる児童たち。その姿に利用者の方も満面の笑顔で応えられていました。 (上嶋 記)

先日、福利厚生センターの企画を利用し、家族で吉本新喜劇を観に京都へ出かけました。私の子供の頃は、土曜も昼まで学校がありましたので、帰宅後は新喜劇を見るのがその頃の子供たちの間では定番であったと記憶しています。現在、私の子供の親になりましたが土曜の昼の楽しみは変わらず、また、土曜はスボ少に励んでいる子供達も新喜劇が大好きで「今日は茂じいやー」とテレビ予約をしています。今回は、子供たちが大好きな辻本茂雄さんこと「茂じいやアキさん、森田さんの絡みを見ながらキラキラしている子供たちと一緒に楽しい時間を過ごせた事、事業所に感謝感謝でした。 (T・H 記)

「甲賀働き暮らし応援センター」だより

滋賀県内の障がいの者の就職件数は、六年連続で過去最多を更新しているそうです。甲賀地域で当センターが支援に関わっている方の就職件数も、昨年度は平成十一年のセンター開所以来、過去最多になりました。今年度も昨年度並みの就職支援件数になる見込みです。職場定着率も昨年度は全国グループの平均を大きく上回っています。要因として、①障がいの者就労支援機関の就職から職場定着までの継続的な支援の連携が少しずつ進んできたこと。②平成二十七年四月から常時雇用している労働者数が一〇〇人を超える事業主に、障害者雇用納付金制度の適応が拡大されたこと。③平成三十年年度から

精神障がい者が法定雇用率の算定に算入されることの周知、啓発で、企業の障がい者雇用に対する理解が進んでいること。などが挙げられています。新規就職者がいくらか増えてもすぐに離職してしまうようでは、障がいのある方の安定した就労生活には繋がりません。安定した就労は安定した生活の上で成り立ちます。その人の働きを支えるためには、それを支える暮らしを支えることが欠かせないと考えています。当センターは新規就職者の数だけでなく、いかに安定した就労、職場定着を支援していけるかを目標にしていますので、職場定着率が全国グループ平均を上回ったことはとても良かったと考えています。 (河合 記)

ダブルクリック！私の視点

私が信楽青年寮で働かせていただくようになり、もうすぐ十二年になります。これも利用者さん、職員の皆さん、また家族のおかげで今日まで来られたのだと、改めて実感しています。そこで『私の視点』について、今までの自分を振り返ってみると、三つの事に注意して仕事をしてきました。まず一つ目は、挨拶です。朝、自分の部署に出勤する時、元氣に笑顔で出てくるか、利用者さんや職員と話すと、しっかりと挨拶出来るか、定期的な振り返り、その都度確認しています。二つ目は、

は、感謝の気持ちです。利用者さんや職員への感謝はもちろんですが、私が一番大切にしたいのは家族への感謝です。出勤前の体調への気遣いや、帰宅後の労いなど、心の拠り所として家族の支えがあるため、精一杯に仕事が出来ると感謝しています。最後は楽しく出来ているかです。辛いことや困難な仕事もある中で、如何にその状況を楽しく乗り越えられるか、工夫したいと思います。簡単にはいきませんが、その三つに気を付けてより良い支援につなげていきたいです。 (河合 記)

職員コラム

先日、福利厚生センターの企画を利用し、家族で吉本新喜劇を観に京都へ出かけました。私の子供の頃は、土曜も昼まで学校がありましたので、帰宅後は新喜劇を見るのがその頃の子供たちの間では定番であったと記憶しています。現在、私の子供の親になりましたが土曜の昼の楽しみは変わらず、また、土曜はスボ少に励んでいる子供達も新喜劇が大好きで「今日は茂じいやー」とテレビ予約をしています。今回は、子供たちが大好きな辻本茂雄さんこと「茂じいやアキさん、森田さんの絡みを見ながらキラキラしている子供たちと一緒に楽しい時間を過ごせた事、事業所に感謝感謝でした。 (T・H 記)

ワークセンター紫香楽
甲賀市信楽町神山494-1
TEL 0748(82)2198
紫香楽和紙は登録商標です